

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ぬくもり・やさしさ・安心 そして地域とのふれあい 私たちは地域に開かれた 地域に愛される グループホームを目指します」	○	理念を掲げ揚げるのではなく、全職員が(当たり前)のこととして、日常のケアに浸透するようにこれからも努力していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の理念「こころ」をリビングや玄関等、職員が常に目に付くところに理念を大きく掲示している。	○	日々の申し送りやミーティング時に意識して話し合うことで理念の共有を深めていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用者・家族・地域の人々、誰にでも解りやすく目に触れるように、各ユニット玄関やリビングに理念を書として掲示している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や外出時に会おう近所の方々に挨拶を交わしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの小学校の行事には積極的に訪問参加している。又、小学生の文化発表や高齢者との触れ合いの場として、ホームにて年に数回の交流会を行っている。	○	開所して以来毎年お盆には、地域の方々が来られ盆踊りを踊っていただいている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム独自での介護研修は行っていないが、計画作成担当者が、鞍手町主催の介護教室の講師をしている。	○	これからの課題にしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価前の月例ミーティングにて、全職員に意義を説明。又、前回の外部評価の結果もすぐにミーティングにかけ、改善にあたった。	○	第三者の目を通して初めて気付く改善箇所や検討箇所を知ること、今後のケアの向上に活かしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね二ヶ月に一回、運営推進会議を開催し、活発に意見を交わしている。前はグループホーム内外での活動の実績を、もっと地域や家族にアピールしてはどうか、盆踊りの訪問について等の意見をいただいた。	○	リビングに、利用者の作成した書や誕生会のスナップ写真を飾るようにしている。また、運営推進会議に参加された利用者家族代表の力添えで、今年も地域の盆踊りを夕方一番の訪問にいただいた。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	計画作成担当者が、鞍手町主催の介護教室の講師として参加している。	○	これからの課題にしたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部職員は研修に参加し理解を深めているが、全職員までは浸透していない。	○	全職員の理解をさらに深め、制度が必要な利用者が居る場合は活用できるよう支援を行う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が、常に利用者の心身に変化が無い確認・気配りを行っている。また、職員のケアストレスについての研修にも併せて参加し、虐待の心理の理解・防止に努めている。	○	身体だけでなく、さまざまな虐待について、全職員が知識として学び、虐待ゼロを続けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に資料を送付したり、随時見学を受入れ、直接家族の方の質問や相談に答えるようにしている。また、本契約前の体験入所制度を行い、家族の方の理解と納得を図っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員が気がついた時点で、早期に全職員に申し送りやミーティングを行い、可能な限り改善を行う。	○意見・苦情を表すことが難しい認知症の利用者には、なじみのスタッフが寄り添うことで可能な限り要望や意見を汲み取り、その個々に応じた対応を行っている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月一度の利用料支払時や、家族の面会時、利用者の心身が不調・急変がある時に報告を行うようにしている。	○日ごろから家族と職員が利用者を中心にしたコミュニケーションをとる事で信頼関係を深めていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの意見・苦情は、すぐに職員の申し送り簿に記載し、施設長や管理者に報告する。ミーティングにてすぐに解決に向けて検討を図る。	○日ごろから家族と職員が利用者を中心にしたコミュニケーションをとる事で信頼関係を深めていく。その上で、希望や要望を真摯に受け止めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングを開き、意見や提案を協議・反映させている。	○普段から職員と顔を合わせる様にし、職員が意見や提案を出しやすい雰囲気作りをしている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況に応じて、通院や活動の時間帯にスタッフを多く配置している。また、個々の生活パターンに合わせてユニット毎に違う時間帯でのスタッフ確保を行っている。	○職員の勤務希望を取り入れたシフト作成を行っている
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今春併設した小規模多機能施設の開所時に臨時応援として3名のスタッフが異動したが、利用者との相性や馴染みの関係に配慮し、2ヵ月後に1名、3ヵ月後に1名、元のG・Hユニットに戻っている。	○職員配置転換後もたびたびスタッフが以前のユニットに来て、馴染みの利用者との挨拶を交わすなど利用者に不安や寂しさを感じさせないようにしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあつたては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	<p>募集・採用時には、性別・年齢の関係なく、職員が個々の個性や能力を発揮できるよう配慮している。</p>	
20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>人権研修会の参加はないが、施設代表者及び管理者がケアミーティングの時に接遇や人権尊重についての話をしている。</p>	<p>○ 外部での人権セミナーへの参加や、具体的に資料やテキストを使ってのホーム内研修を行い、職員の人権教育、啓発活動への理解を深めていきたい。</p>
21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員それぞれの経験や資格等の段階に応じた研修への参加を促している。</p>	<p>○ 研修や勉強会に極力参加できるようにしている。また、ホーム内研修を年数回開催し、社員のケアの向上に努めたい。</p>
22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他施設の色々な職種の職員と、話をする場を持ったり、お互い施設見学をして意見交流し、サービス・質の向上を目指している。</p>	<p>○ 相互見学や訪問、ふれあいフェスタ等で意見を交わしている。合同勉強会の予定はなし。</p>
23	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ケアストレスに関する研修を受けている。職員同士の親睦・信頼を深め、ストレスの元になりうる問題点をすぐに話し合うようにしている。</p>	<p>○ 職員同士の声かけで、休憩時間を取り気分転換を図る。職員同士、気兼ねなく意見を交流できる雰囲気を作っている。</p>
24	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>出来る限り介護現場に出て、職員の勤務状況や努力を把握するようにしている。</p>	<p>○ 利用者の介護度が次第に重度になり、職員のケア力も大きくなる。常日頃からの状況把握と職員への声かけをすることで、双方の信頼関係を築く。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	可能な限り本人から今現在の不安や希望を聴き、さらに言葉だけでなく態度での意思表示を汲み取れるよう本人の視点に立った声かけを行う。	○ 不安や希望をうまく表出できない方や、生活歴や活動歴をあまり語りたがらない利用者や家族に対し、まずは時間を掛けて安心感をもっていただけるように努力をしていきたい。
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の悩みを傾聴できる環境と場を設け、具体的な悩みを聞き入れ、それに対しどう解決していくか家族との実質的協力と、家族への適切な助言を行う。	○ 不安や希望をうまく表出できない方や、生活歴や活動歴をあまり語りたがらない利用者や家族に対し、まずは時間を掛けて安心感をもっていただけるように努力をしていきたい。
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の現状を把握し、緊急を要する時は早期対応、場合によっては他施設と連絡をとり協力を仰いで支援をする。	
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族とも気軽に見学をしていただき、希望の方には利用契約前の体験入所のシステムを利用してもらい、他利用者や職員を含むホームの雰囲気馴染んでいただく工夫をしている。	○ 利用者が不安を感じたりするときには、ご家族の協力を得て、手紙や電話のやり取りを支援したり、家族との面会の場を設けたりしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者一人一人の得意分野を引き出しながら、職員と一緒に教わる心で接している。	○ 料理・園芸・書道・生け花と、それぞれが得意とするものを教わりつつ、一緒に楽しんでいる。
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時には本人の体調や金銭報告だけでなく、本人の求めている物事や、他利用者や職員との「生活」を通してのエピソードをお伝えし、日常の喜怒哀楽を共有していただいている。	○ 利用者から家族へ、家族から利用者へ向けた 日ごろの想い・気持ちを、これからも温かい言葉で架け橋にしていきたい。
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と、家族の思いや関係を考慮し、そのお互いの信頼関係を支えるような具体的支援や声かけに努めている。	○ 利用者から家族へ、家族から利用者へ向けた 日ごろの想い・気持ちを、これからも温かい言葉で架け橋にしていきたい。
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活の基盤である地域への思いを大切にし、気軽に遊びに行けるようにしている。	○ 通いなれた店・行きつけの病院の利用・ドライブや昔馴染みの知人との面会・電話・手紙などの支援を現在行っている。
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者が孤立しないよう、日中はリビングに集い、利用者同士が顔をあわせ、円滑にコミュニケーションが取れるようにスタッフを交えながらの環境作りをしている。	○ リビングでの座席は、本人の希望と相性を踏まえて配している。(仲のよい利用者同士、もしくは間にスタッフを入れてのコミュニケーション作り)
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	体調不良などで入院されたときなどには病状を家族や病院に確認したり、出来る限りお見舞いに行き、現状を把握するようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や密にコミュニケーションを図り、言動・表情から個々の意向・希望を傾聴し把握するようにしている。	○ サービス開始時に概ねの生活歴や生活環境を伺ったケアとなるが、入所されて徐々に把握できる細かい情報も多々あるので、全職員にそれを確実に申し送りしていきたい。
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの生活歴や既往症を聞き、それを生かしたケアを検討する。	○ サービス開始時に概ねの生活歴や生活環境を伺ったケアとなるが、入所されて徐々に把握できる細かい情報も多々あるので、全職員にそれを確実に申し送りしていきたい。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活パターンや個性(嗜好・残存能力)を大事にしたケアを行い、その方に合った生活ペースで過ごしていただいている。	○ サービス開始時に概ねの生活歴や生活環境を伺ったケアとなるが、入所されて徐々に把握できる細かい情報も多々あるので、全職員にそれを確実に申し送りしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一度開催のユニットごとのケアミーティングを行い、それまでにリサーチした本人や家族の意向や希望・医療面からの意見を元にケアのあり方を検討している。また、家族にも情報の共有化をしている。	○ 月一度のカンファレンスにて、ケアプランに沿った具体的な介護計画のモニタリング・見直しを行う。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティングにてケアの見直しを行っている。また、現状に急変が見られた時は、ただちに家族やかかりつけの病院と連絡をとり、すぐに新しいケアプランの提供を実施するようにしている。	○ 月一度のカンファレンスにて、ケアプランに沿った具体的な介護計画のモニタリング・見直しを行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の日常を一時間毎にケース記録に記入。また、ユニット毎の業務日誌や入浴・排便・バイタル・水分表を活用し、スタッフ同士の情報の共有やケアの再検討に努めている。	○	利用者の心身や環境の特変時には、申し送りノートへの記載や口頭での申し送りを確実にしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の病状や希望に合わせ、通院先を変更したり、希望の外出(買い物・ドライブ等)も行っている。	○	職員の業務中心ではない、利用者や家族の希望や状況の急変に臨機応変で応えられるよう、これからも努力していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年に数度の小学生との交流会にて親睦を深めたり、公共の図書館へ外出し利用している。また、地元警察の協力により、一日数度の巡回が実施されている。	○	地域の小学校の校外活動の場所提供や地域のボランティアグループの協力を得て訪問等の活動を実施、又運営推進会議の委員を地域の住民に依頼し参加をお願いしている
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域や他のサービス事業者との交流や連携を図っている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、地域包括センターとの協働は行っていない。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を第一に、個々にあった医療機関の情報を提供し、受診、治療を円滑に行うよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
47	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
48	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
49	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
50	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>グループホームでのターミナルケア研修も参加しているが、現職員配置体制に看護師が必置でない為、24時間体制での医療面を含めたケアサービスのあり方等、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組む検討や準備を進めていく</p>
51	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者や家族が安心できるゆっくと温かみのある声かけや対応を目指している。ゆったりとした個室を提供し、職員の入室時にはノックや声かけをし、プライベート空間と守るよう配慮している。記録は、個人情報の取り扱いを慎重にしている。	○	年齢や性格もさまざまな職員の行うケアや接遇であるが、基本的に利用者に対し親身になって尊厳を守るよう心がけている。又、利用者個人の記録簿は、収納棚に目隠しのカーテンをかけ、家族以外の訪問者や業者の目に触れないように工夫している。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	希望のある利用者には出来るだけ実現するようサポートし、表出できない利用者には体調・天候を考慮したスケジュールを提供している。	○	認知症重度の利用者の方にも、表情や仕草から自己選択や自己決定の意思の表出を心掛けたい。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜更かしや昼寝・夜食や間食など好まれる方には、健康を害さない限り自由に過ごしていただいている。	○	起床時間に合わせて食事の提供時間や量を調整したり、本人の生活リズムを大切にしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	整容の乱れ・汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭・着衣・履物・食べこぼし・口の周囲等)	○	整髪に関しては、スタッフが対応したり、希望のある利用者は地域との交流のひとつとして近所の理髪店か本人の行きつけの店を利用できるよう支援している。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好き嫌いや嚥下能力に合わせた食事を提供している。また、相性のよい利用者同士を相席し、配膳・下膳も利用者の協力をお願いしている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、お酒やタバコの提供は行っていないが、おやつや飲み物は利用者の好みや希望に沿って提供している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別記録から排泄パターンを把握し、さりげない誘導や声かけを行っている。	○	言葉で便意・尿意を表出できない利用者の感情や身体的不快感を読み取り、夜間はオムツ使用の方も、日中は出来る限りリハビリパンツとパッド使用にて誘導排泄を試みている。
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間や回数は厳密には決めていないが、利用者の希望で朝風呂や夕食後の入浴も提供している。最低でも週2回の入浴支援を行っている。オムツでの夜間排尿の利用者には、起床時に陰部洗浄を実施している。	○	入浴に強い拒否のある利用者には、無理強いせず穏やかに声掛けし、お風呂に対する恐怖心や羞恥心を取り除き、安心して入浴を楽しんでいただけるよう支援している。また、仲の良い利用者同士は、お2人で楽しく入浴していただけるようしている。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の睡眠のパターンを把握し、夜間眠れない利用者には一緒にお茶を飲んだり話をして過ごしていただく。常時の睡眠導入剤の使用はない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事時の配膳・下膳のお手伝いや、一緒に畑へ行き野菜の収穫を楽しんでいる。また俳句や書道の趣味を支援している。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さを職員が理解し、買い物の時など自分で支払ってもらうような声かけを行っている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬は日中・夏は夕食後にホーム周辺を体調や天候・希望の有無によってスタッフ同行で散歩をしたり、食材等の買い物も、出来る限り利用者と一緒にしている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に合わせて花見や菊花展などスタッフと利用者で出かける行事を行っている。	○	重度の利用者に関しては、このサービス支援の方法等の改善・検討を進めている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人記入の手紙やはがきはホームにて預かり、家族の訪問時に手渡すようにしている。	○	本人と家族の話し合いのもと、手紙や電話がやり取りできるよう支援している。
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・親戚・知人等、馴染みの人たちが気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。	○	毎月の利用料の支払は、訪問して直接払う方式をとっている。面会時間の設定はなく、いつでも気軽に訪問できる雰囲気である。希望があれば、宿泊の用意もある。
(4)安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないということを職員が認識していて、身体拘束のないケアを実践している。	○	身体拘束は行われていない。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。	○	日中は施錠していない。見守りで外出の察知をしている。夜間のみ、防犯のため施錠している。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	各居室への職員入室時には必ずノックや声かけをし、日中は1時間毎に記録をとり、個々の様子を把握している。夜間は利用者により1～2時間毎の巡視を行っている。	○	職員を最低でも一人以上リビングに配置し、見守りを行っている。トイレやコール対応でリビングを空けるときは、職員同士の連携で代替りの職員が配置につく
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤は利用者の目の届かないところに置きたいが、中には手洗い洗剤を使用できる利用者もいて、一概に全部を排除することは行っていない。	○	誤飲の危険性を考慮する。包丁などの後始末を確実に行う。
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善に繋げている。(再発防止の話し合い、今後に生かす意義付け等)事故報告者やヒヤリハット報告書の整備と再発防止の取り組みを行い、日常的に活用できるようマニュアルを作っている。	○	ホーム開所時に約半数のスタッフがリスクマネジメント研修を受けている。やるべきことをやって起こった事故か、常に職員が見直す目を養うように、ヒヤリハットが発生したときには当日中に書面に残し、他の職員に回覧している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時は早期に適切な対応を行い、上司に連絡、指示を仰ぐ。緊急時の状況で冷静に救急車の要請や応急手当が出来るよう、マニュアルを用意している。	○	全ての職員が緊急時に適切ですばやい対応が出来るよう、さらに力を入れていきたい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	緊急事態に備え、非難経路及び、避難場所の確保をしておくと共に、各ユニットリビングに緊急避難時の非難経路の建物見取り図を掲示し、全職員が熟知している。	○	北九州市消防設備保守センターの点検を年2回受けている。本年度の避難訓練は近々行う予定である。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時に個々の身体状況や認知度からくるリスクを想定し、説明を行っている。	○	個々の生活から発生しうる事故やリスクを予測し、それぞれの自由な生活を支援しながら出来る安全の確保に努めている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	心身の変化や異状発生時に、職員で情報を共有し、体調に応じたケアを行う。(水分摂取の強化・休養・消化のよい食事の提供等) また、相談できる医療関係者を確保している。	○	出来るだけ利用者の既往歴を熟知している主治医へ相談する。ホームと連携が取れる医療機関も確保している。
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の入所者が服薬・使用する薬の目的や副作用、用法や用量を理解し、一人一人が医師の指示通り服薬できるよう支援し、服薬後の症状の変化や安定を確認している。	○	薬は利用者ごとのフックに管理し、一度に複数の薬を服用する方には、薬局での処方時に一包化し、飲みごしや誤薬が無いよう心がけている。与薬時には薬包に記入してある日付・名前・服用時間を確認しながら薬をお渡しし、飲み終わるまで見守るようにしている。
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便パターンを、一ヶ月の表で確認し、それぞれに適した支援を行う。(水分の一日の摂取を記録し、水分補給の強化や排泄時に便座に腰掛けることで腹圧をかけ、腹部マッサージを実施し、自然排便を促している。	○	日課の散歩やマッサージにて、腸の動きの活性化を図っている。
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者個々の力を引き出しながら、口腔内の汚れや口臭が生じないよう、口腔内の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・義歯の手入れ等の支援)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の水分摂取量・栄養バランスを一日全体を通じておおそ把握している。	○	水分や食事の摂取量は個別記録に記載され、職員が把握している。カロリー計算は具体的な数値の算出までは行っていない。
80 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。感染症に対するマニュアル本を作成している。	○	アルボナース・ハンドソープを台所や洗面所に配置
81 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の清潔と衛生の保持に努めている。(食品・布巾・包丁・まな板・冷蔵庫など)調理前、必ず手洗い励行する。	○	食材の鮮度や賞味期限には特に注意を払う。大量の作り置きや買い置きは避けるようにする。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
82 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	違和感や威圧感を感じさせず、入居者や家族が入りやすく近隣の住民も訪ねやすいよう、玄関周りや建物の周囲に家庭的な雰囲気作りの配慮をしている。(玄関周りに季節の花を植える。親しみやすい表札を掛ける等)		玄関が普通の家庭を思わせるつくりになっていて、花やベンチが置かれている。
83 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の生活空間は広々として、木の香りが漂い、入居者や職員が手作りの装飾品が飾られていて、家庭的な雰囲気を有している。	○	南向きの大きな窓からの自然光を活かし、日中は、居室の照明の明かりを調整している。
84 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の生活空間の中に、入居者同士が自由に過ごせるような居場所を確保している。		要所に椅子やソファが置かれていて、そこに腰をおろすなど、思い思いに過ごされている。特に畳の空間は温かみを感じる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の使い慣れた生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所になっている。	○	利用者自身が今まで使っていた日常生活用品の持込が見られる。ベッドはホームが用意したものだが、身体状況や居室の状態に合わせた個別の物が用意されている。
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室には24時間換気扇が設置されている。リビングは床暖房で間接暖房を取り入れている。開けられた窓から、庭やウッドデッキを通った風が心地よい。	○	各ユニットに、気温計・湿度計を設置し、過ごしやすい空調・換気を心がけている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の過去の経験や好みを生かし、個人の身体能力により、「している事」と「できる事」を段階的に提供し、それに対し個人が興味をいだき積極的に行えるよう支援する。	○	安全で自立した生活を送れるよう、トイレ・浴槽に手すりが設置されている。
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入所者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。	○	入居者の過去の経験を生かした取り組みが行われている。現在、掃除道具・園芸道具・裁縫道具等を用意している。
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	リビングに面した窓の向こうは広々としたウッドデッキ、広い庭には散歩コースが設置されている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

広いリビングに面した南向きの大きな窓からは、広々としたウッドデッキと広い中庭、その中に当グループホームの象徴でもあるかえでの樹を望むことができます。紅葉や新緑の芽吹きなど、四季折々の姿を楽しむことができます。入居者の皆様の昔なじみの歌を模造紙にわかりやすく書き、歌ったり踊ったり楽しまれています。かえでの理念は「こころ」です。かえでを支えてくださる利用者様・御家族様・地域の皆様に、おもてなしの「こころ」で接し、何処にでもある家庭の雰囲気作り、家庭的な会話等を推し進めて行きます